

全学共通科目のねらい

—基礎ゼミナール—

都市教養学部理工学系数理科学コース・准教授
小林 正典

「基礎ゼミナール」とは

「基礎ゼミナール」は全学共通の必修科目の一つであり、首都大学東京の科目体系の目玉である「都市教養科目群」と呼ばれるグループに属する、新しい科目である。重要な科目であるので、原則として教授または准教授が担当することになっている。

特徴

仮に、次の4つのキーワードでまとめてみた。

1. 「鉄は熱いうちに打て」

1年の前期に履修する。大学に入学した直後の向学心に燃えている時期に、受動的学習から能動的学習への切り替えを促す。

2. 全学生共通・必修の授業科目（2単位）

様々な所属の学生がゼミナールに混在して議論することで、価値観の多様性に気付かせることが目的の一つになっている。そのため、文系・理系等の学生が混在するようにテーマを設定する必要がある。予備知識を仮定して履修者をほぼ一定の所属に限ることは許されない。くじ引きの偶然でゼミ所属が決まることも多い。教員の急病のため別の教員が急遽ゼミを担当することもよくある。必修であるから、学生は自分で望んだゼミであろうとなかろうと、最終的にはどれかのゼミに所属する。どんな学生にとってもある程度興味をもって取り組むことができるようなテーマ設定が必要であり、これが言うは易し、行うは難しで、担当される教員の方々に大変な工夫をしていただいているところである。

テーマや方法はゼミナールにより様々であるが、基本的には同一の講義であり、クラスにより評価の極端な有利不利があるのは好ましくないため、基礎ゼミ部会で成績評価基準の目安を作り、お願いの形で担当教員に配布している。

なお、2単位というのは講義課目の単位であり、演習科目とは異なり、授業時間以外に自宅学習等をする必要があることを意味する。

3. 専門的知識の習得 知の技術の習得

通常の授業とは異なり、専門につながる内容を教えることが目的ではない。学習・研究において重要な、問題発見・情報収集・議論・課題解決・発表といった過程と、それらに必要な基礎的な技術を体験的に習得させることが目的である。

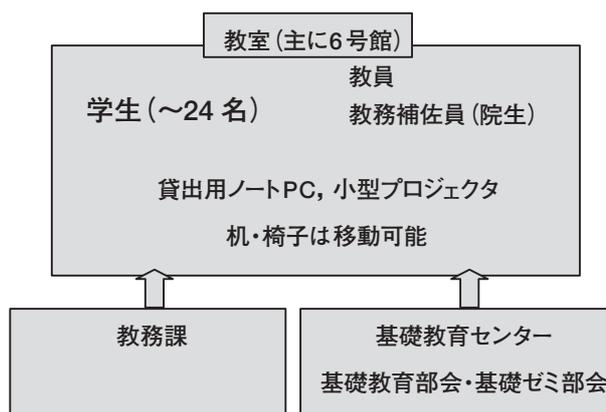
4. 学生参加型

教員の講義を主としない。少人数のセミナーに分かれ、それぞれ学生が主体的に作業をし、教員はそれをサポートするという形式が主となる。

特に、2. にあるように学生も教員も専門が混在していることは、クロスロード5号の青塚先生の記事にあるように、他大学にはまず見られない本学独自の特色である。

実施状況

2008年度の実施状況については次の図を参照していただきたい。



実施の例は、セミナー当日に写真でご紹介したとおりである。学生さんたちの生き生きとした表情が伝わっていただければ幸いである。

開講状況

2008年度の開講数は合計79クラスであり、クラス人数の平均は20人強である。担当教員は全学から出してもらっており、多彩なテーマでゼミナールが行われている。教員の所属別の開講数はおおよそ以下の通りである（2008年度）。

人文・社会系	11クラス
法学系	6クラス
経営学系	6クラス
理工学系	17クラス
都市環境学部	10クラス
システムデザイン学部	10クラス
健康福祉学部	9クラス
オープンユニバーシティ	10クラス

今後とも、より適正な人数で魅力あるゼミナールが行えるよう、ますますのご協力をお願いしたい。

なお、学生の便宜を図るため、曜日を散らして開講している。

月曜5限	26クラス
火曜5限	14クラス
水曜4限	23クラス
金曜5限	16クラス

コマによるクラス数の差は、これまでの学生の登録傾向を踏まえて、できるだけ1クラスの人数が偏らないように工夫しているためである。学生の選択肢を確保するため、各所属の必修科目はこの4コマと重ならないよう、今後ともご協力をお願いする次第である。

スケジュール

学生の興味をできるだけ尊重し、1クラスあたりの人数を均一化するため、Web抽選等によりクラスを決定す

る。そのため、年度当初は以下のように特別のスケジュールが組まれている。（2008年度の例）

4月8日・9日	都市文明講座
4月8日～10日	Web抽選
4月11日	当選者発表（第1回）
4月12日（14日）	一般の授業開始
4月14日・15日	未決定者Web抽選
4月16日	当選者発表（第2回）
4月17日・18日	未決定者窓口申請、決定
4月21日～	基礎ゼミナール授業開始

ゼミ開始が1週間遅れる分、一般の授業開始前に「都市文明講座」という基調講演を1回聴いて、問題意識を高めている。

Web抽選では、学生はシラバスを見て第5希望まで登録し、希望者が多いクラスについては抽選となる。今年度は各クラスの最大人数は24人とした。第5希望まで選に漏れてしまった学生は、まだ人数の余裕があるクラスの中から再び第5希望まで登録し、第2回目の抽選を行う。それでも決まらなかった場合は窓口で対応する。

学生がゼミを選ぶ資料としてはシラバスが大きな割合を占めるため、シラバスを丁寧に書いて、ゼミナールの内容・魅力を伝えることが重要である。

学生からの評価

基礎ゼミナールに対する学生からの評価は、概ね高く、しかも毎年上がっている。2007年度の基礎ゼミナールに対し、「私はこの授業を受講して満足した。」に対する答えは、

YES（64.9%）

NO（11.7%）

となった。ただし、5段階評価で、5と4をYES、2と1をNOとした。クラス単位では、YES（66.7%）、NO（1.5%）であり、3分の2ものクラスで平均評価が4以上となっている。

今後とも、基礎ゼミナールに対して、引き続きご協力をお願いする次第である。